

2020年度（令和2年度）
第3回 福山市廃棄物減量等推進審議会 議事概要

1. 日時等

日時：2020年（令和2年）12月22日（火）
14:00～16:00
場所：福山市役所本庁舎6階 60会議室

2. 出席者

委員：鶴崎健一 会長，長谷川良二 副会長，内田隆士 委員，川上富美子 委員，栗原正和 委員，清水直樹 委員，瀬戸田誠 委員，園尾俊昭 委員，田辺洋子 委員，連石武則 委員，中込ひとみ 委員，中田基晴 委員，山根直子 委員，吉岡睦子 委員

事務局：環境総務課長，廃棄物対策課長，環境啓発課長，環境施設課長，環境総務課整備担当次長，廃棄物対策課廃棄物第1担当次長，環境総務課職員

3. 承認・報告について

- 委員18人中14人の出席により定足数を満たしていることから，本審議会が成立していることを報告した。
- 事務局より，「福山市一般廃棄物処理基本計画の中間見直しについて（答申）（案）」について説明し，了承を得た。
- 「福山市一般廃棄物処理基本計画（素案）」については，2021年（令和3年）1月にパブリックコメントを行い，その後の修正は会長預かりとすることを説明し，了承を得た。

4. 議事（1）福山市一般廃棄物処理基本計画の中間見直しについて

ア ごみ調査結果の概要

事務局から，資料2による説明後，質疑応答を行った。

質疑・提案（委員）	応答（事務局）
調査結果を比較する都市がばらばらである。国が基準を作るなど，基礎データをしっかりしておかないといけない。	他都市や近隣市などの比較対象がないと施策展開もできない。調査を継続して行うことも重要だが，環境省にも調査を促すよう言っていきたい。
家庭系，事業系ごみともに食品ロスが多い。日本の食料自給率は40%を切っているため，食料をもっと大事にしなければならない。市民一	食品ロスの問題は，環境部だけではなく，福祉や農業等の視点で取り組む必要がある。引き続き，市民の方にも協力していただきたい。

人一人が、自覚と高い意識を持たないといけない。	
雑紙は資源化できない紙類と判断しているのか。資源化可能な紙類に含められないか。	雑紙は、資源化が可能である。ただ、周知できていない状況があり、外している。今後、啓発を充実させて、市民や事業者に協力をいただきたい。 (資源化可能なところに含めることも検討できる。)
市役所内のペーパーレス化はどこまで進んでいるのか。	議会資料については、議員と部長級以上にタブレットを配付し、ペーパーレス化につなげている。申請書のデータ化や押印の廃止も含めて、デジタル化を進めている。

イ ごみ処理基本計画改定の考え方・生活排水処理計画改定の考え方

事務局から、資料3、4による説明後、質疑応答を行った。

質疑・提案（委員）	応答（事務局）
次期ごみ処理施設では、焼却灰を全量資源化するということが、ごみ量は増えているのに、最終処分量は減るとするのは違和感がある。	最終処分量については、施設から発生する残渣の割合に基づいて計算している。前回の資料では、次期ごみ処理施設の供用開始後も、燃やせる粗大ごみを中間処理施設で処理する推計をしていたことから、修正した。
次期ごみ処理施設でも発電を行うと思うが、リサイクル率には加味しないのか。	現在は、RDF製造量を全てリサイクル率に加味しているが、国の考え方は、発電について考慮しないこととなっている。ただし、焼却灰の資源化は加味できるので、推計に加えている。
計画を進めていく上で、自治会連合会や公衆衛生推進協議会などの団体との連携によって、目標に近づけると思う。啓発や協力体制について、検討していることはあるか。	取組施策を25項目立てているが、行政だけでは達成できない。市民、事業者、行政、団体が一体となって進めていく必要がある。今後、団体と議論する中で、取組を行っていききたい。
各学区や町内会で取り組めば、ごみ量が減るなど効果も大きくなると思う。	一方で、十分に話できていない状況もある。ぜひ今後も連携していききたい。
地域の問題として、自治会加入率が減ってごみに関するトラブルもあり、優良事例や地域の紹介などをしてもらうのも助かる。	優良事例については、優良ステーションの表彰を行っている。どう発信していくか考えていきたい。

<p>今後は、情報発信を上手く行い、密に連携することが必要と考える。</p>	
<p>事業所を回る回収業者において、分別できていないのにごみを持って帰るなど、収集業者によって対応に差がある。市の指導の実態はどのようなになっているか。</p>	<p>許可業者については、展開検査の実施や許可の更新時には、適正分別や交通安全について講習を行っている。</p> <p>事業系ごみの実態が、今年度の組成調査で初めて把握できたため、ごみの資源化や減量化について、繰り返し普及啓発していく。</p>
<p>収集業者で ISO14001 を取得している業者はどれくらいいるのか。温暖化対策にもなるため、選定の基準とすればよいと思う。</p>	<p>把握していない。今後、情報収集していく。</p>
<p>景気の動向を将来推計に加味しているか。コロナ禍などで不況が予測されるため、ごみが減るなど影響があるのではないか。</p>	<p>将来推計は過去の実績を基に予測している。今後の景気の動向が読みにくいところもあるので、PDCAサイクルをしっかりと回す中で検証し、見直しを行う。</p>

ウ 福山市一般廃棄物処理基本計画（素案）

事務局から、資料5，6による説明後、質疑応答を行った。

質疑・提案（委員）	応答（事務局）
<p>エコでえ〜ことキャンペーンは評判が良かった。GO TO Eat キャンペーンなど、他のキャンペーンと絡ませて事業を拡大してはどうか。</p>	<p>2007年（平成19年）から2019年度（令和元年度）まで、形を変えて13年間、市民と事業者と一体になって取り組むことが出来た。レジ袋の削減など効果・成果も出た。今後、新たな取組を考えていく。</p>
<p>ごみ出し支援の施策については、ごみ屋敷の問題を視野に入れているか。</p> <p>年をとると、ごみステーションまでごみを持っていくことが難しくなる。ごみ出し支援は、必要性が高いサービスだと思うので、実施に向けて進めてほしい。</p>	<p>ごみ出し支援については、今後ニーズ調査を行い、高齢者や障がい者へどのような支援ができるのか、福祉部局と連携して考えていく。</p> <p>ごみ屋敷の解消を目的とはしていないが、結果的につながるかもしれない。</p>
<p>分別収集については、定着してきていると感じている。ただ、ごみステーションに掲示している分別日などが書かれた看板が古くなっている。市が啓発したいことなど書くものを工夫し</p>	<p>看板は、ごみステーション管理者の依頼に基づき、各環境センターや廃棄物対策課へ連絡いただくと、交換できる仕組みとなっている。看板に記載する啓発内容については、今後検討す</p>

て、看板の交換を検討してみてもどうか。	る。
目に見えるメリットや取り組んでみたいと思わせる工夫が必要である。分かりやすい情報発信や啓発を検討してほしい。	—

5. 議事（2）答申について

事務局から資料7，8による説明後，質疑応答を行った。